



男女共同参画推進機構 Newsletter

男女共同参画推進本部・ダイバーシティ研究環境支援本部・キャリア開発支援本部

2017年度（平成29年度）男女共同参画推進活動

2017年度は、2006年度以降に採択された3つの助成事業が終了して2年目ということで、昨年度に引き続き、大学の独自運営により「男女共同参画推進本部」「ダイバーシティ研究環境支援本部」「キャリア開発支援本部」の3つの本部が互いに連携しながら活動を行いました。男女共同参画の推進方策に関する企画・立案・実施や啓発活動を担う「男女共同参画推進本部」では、LGBTをテーマとした公開講座「知る・学ぶ・伝えるequality」の開催や関西圏の女子大学との連携・交流を広げるための「異分野交流会」を主催、共催しました。また、HPおよびリーフレットのリニューアルにも着手しました。生涯にわたるワーク・ライフ・バランスの実現をサポートする「ダイバーシティ研究環境支援本部」では、共助支援事業として女性研究者の仕事と生活の両立支援や学生・教職員の子育て支援や女性の健康相談に取り組み、研究活動支援事業として理工農医保健系女性研究者に対する研究支援を行いました。大学院生、ポストドクター、単位取得満期退学者に対するキャリア支援を行う「キャリア開発支援本部」では、産学協働イノベーション人材育成協議会との連携、種々の交流会、セミナーを通じて就職支援を行いました。



2017年度は学長の強いリーダーシップのもと、大学として「女性教員の大学の政策・方針決定過程への参画推進に関するアクションプラン」の策定、および「女性活躍推進法に基づく奈良女子大学行動計画」の改定が行われました。前者のアクションプランでは、「女性教員採用比率50%を目標とし、女性教員上位職比率と女性教員管理職比率の向上促進を図る」ことが、また後者の行動計画では、目標として「女性教員比率38%を達成し、女性管理職比率20%（女性教員管理職比率38%）を維持する」ことが明記されています。特に後者に関しては、目標実現のための具体的な取組が9つ挙げられていますが、このうち、ダイバーシティ研究環境の実現、ライフイベントによる研究停滞者・中断者への復帰支援、子育て支援、ワーク・ライフ・バランスに関する相談など5つの取組については本機構が担当しており、大学としての男女共同参画推進における本機構の役割の重要性を改めて認識しています。

男女共同参画推進機構のこれまでの実績

- 「女性研究者支援モデル育成」**（H18～H20） **A 評価**
 ライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮した柔軟でニーズに沿った環境整備
- 「女性研究者養成システム改革加速」**（H22～H26） **A 評価**
 女性教員比率、女性教員採用比率、女性教員昇任比率の目標達成
- 「ポストドクター・キャリア開発事業」**（H23～H27） **S 評価**
 女性研究者の裾野拡大のためのキャリア支援の充実

今後も学内の関連部署との連携により部局横断的な事業の実施をめざしてまいりますので、引き続き本機構の活動につきまして、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2018年3月
奈良女子大学男女共同参画推進機構長

藤原 素子

男女共同参画推進本部

男女共同参画推進のため、意識啓発事業として公開講座「知る・学ぶ・伝えるequality」の開催、関西圏女子大学と連携したプロジェクトである異分野交流会の実施、地域自治体の男女共同参画への取組みに対する貢献などを行っています。

地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」

「知る・学ぶ・伝えるequality」講座は社会連携センターが行う地域貢献事業の一つとして、男女共同参画推進機構が2010年から展開している事業である。「equality・平等」に関するさまざまなテーマで男女共同参画の根幹である「多様な個性の尊重」を身近な問題として捉え学び、広めることを目的とし公開講座を開催してきた。今年度は昨年度に引き続き「性的マイノリティ」をテーマとして、2回の公開講座を開講した。

なお第2回は男女共同参画推進機構が年1回開催している「男女共同参画推進のための講演会」と併せて開講した。

地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第1回

みんなで話そうLGBTについて～誰もが過ごしやすい学びの環境をつくるために

【日時・場所】 2017年10月5日（木）16：30～18：00 N201教室
【講師】 加藤 悠二氏（特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ）

性を構成する要素には、性別（生物学的な男女）、性自認（自分が自身をどうみるか）、性的志向（恋愛対象；「興味なし」を含む）、性表現（自身の性をどう表現するか）があり、これらの相対的重要性は人によって異なる。ところが社会生活を営むうえで性別の役割が強すぎ、他の要素と不一致が生じることがしばしばある。このことが問題の本質である。

このような問題は、本来話し合いにより解決すべきなのであるが、実際にはセクシュアリティについて話をすることは容易ではない。このため、お互いに話をしやすい環境を作ることが重要である。このようなことを踏まえ、大学として何ができるのであろうか？まずは当事者の声を大事にするなど健全な人間関係の構築をすべきである。

本学は女子大として性の多様性について考えるべき社会的な責務があり、本学で人生の大切な時期を過ごす学生や教職員にも性的マイノリティの人たちがいる。マジョリティに属する人たちがマイノリティの人たちにどう対処するかというより、全員でお互いに考えようという問題意識に、共感を覚えた。



地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第2回・男女共同参画推進のための講演会 性の多様性と自由・平等—国際人権法からみる日本の現状—

【日時・場所】 2018年1月29日（月）15：00～16：30 S228教室
【講師】 谷口 洋幸氏（高岡法科大学法学部教授）

近年、人間の性の多様性が広く認識され、LGBTやSOGI（性的指向と性自認）に関する差別が大きな問題となっている。一般にはあまり知られていないものの、国際人権法にはすでにこのような問題が明確に書き込まれ、差別の禁止がうたわれている。谷口氏は、このような国際人権法からみた日本の現状について紹介された。

国際人権法における人権保障の展開として、1) 私生活の尊重をうける権利、2) 家族生活の尊重をうける権利、3) 婚姻する権利、4) 差別なき人権の享有などがある。一例を挙げると、家族生活をする権利は少数派を含むすべてのSOGIの人に共通する権利であり、国家レベルでの法的保障が必要とされる。ところが、G7の中で日本だけがそのような法律をもたない。よって、国連人権理事会では2017年に日本への改善要求が13カ国からなされている。「人権はすべての人が等しくもつものであり、人権とは国家に課された義務である」という言葉が印象に残った。



関西圏女子大学の連携推進活動

女性研究者の環境整備や研究力向上、次代の優秀な女性研究者の育成を目指して、関西圏の5女子大学有志により、2014年に関西圏女子大学間連携による女性研究者共同支援を目指してワーキンググループが結成された。現在は奈良女子大学、武庫川女子大学、神戸松蔭女子学院大学の3大学メンバーが、年に数回のワーキング会議を開催し、女性研究者の共同研究の推進、協働による研究環境の整備・充実、育児・介護共同利用システムなどを目指して活動している。

2017年度は以下の6回のワーキンググループ会議が開催された。

2017年度 ワーキンググループ会議開催状況

	開催日	会場	主な議題
第26回	6月16日	武庫川女子大学	第4回異分野交流会について
第27回	8月5日	武庫川女子大学	第4回異分野交流会開催について
第28回	9月29日	武庫川女子大学	第5回異分野交流会について・異分野交流共同研究シーズ発掘支援について
第29回	12月15日	武庫川女子大学	第5回異分野交流会について
第30回	2月3日	奈良女子大学	第5回異分野交流会開催について
第31回	3月30日	武庫川女子大学	異分野交流共同研究シーズ発掘支援経費申請の選考について

異分野交流会の開催

女性研究者の研究が発展しにくい原因のひとつとして、出産・育児・介護などのライフイベントのために他の研究者と交流する時間がなく、共同研究が実施しにくいことが挙げられる。共同研究萌芽を促進するための試みとして、2016年2月に「異分野キックオフ交流会」を武庫川女子大学で開催した。以降年2回のペースで異分野交流会を開催し、第4回異分野交流会は武庫川女子大学、第5回異分野交流会は本学において開催した。異分野の研究者が集い研究成果に対して、それぞれの立場から意見を交換することにより、思いがけない共同研究の萌芽が期待できる。

◆第4回異分野交流会

日時：2017年8月5日(土)12:00～16:10

会場：武庫川女子大学 中央キャンパス
ラーニング・コモンズ604

テーマ：「生活」「感性」「女性」「科学技術」

参加者：26名

【プログラム】

12:00 開会

会場大学からのご挨拶

武庫川女子大学 糸魚川直祐学長

12:10 研究発表（ポスターによる発表）

13:30 フリートーク（発表者への質問など）

14:00 グループワーク

15:30 グループワーク まとめ発表

16:10 閉会



◆第5回異分野交流会

日時：2018年2月3日(土)12:00～16:10

会場：奈良女子大学 コラボレーションセンター
Z306室

テーマ：「美」「情報」「身体」「環境」

参加者：30名

【プログラム】

12:00 開会

会場大学からのご挨拶

奈良女子大学 今岡春樹学長

12:10 研究発表

（パワーポイントによる口頭発表）

13:10 フリートーク

（発表者への
質問など）

14:00 グループワーク

15:30 グループワーク
まとめ発表

16:10 閉会



男女共同参画推進本部の活動についての問い合わせ先

Tel 0742-20-3204

e-mail somusomu@jimu.nara-wu.ac.jp

ダイバーシティ研究環境支援本部

(旧女性研究者共助支援事業本部・女性研究者養成システム改革推進本部)

科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」（2006～2008年度）、「女性研究者養成システム改革加速」（2010～2014年度）において培った女性のライフイベントに配慮した教育研究環境の整備や女性の研究力強化支援を採択期間終了後も大学の重要な事業と位置付け、女性研究者共助支援事業本部と女性研究者養成システム改革推進本部において更なる整備と拡充を図ってきました。2016年4月、教育研究活動のダイバーシティ化を推進するため、2本部を発展的に統合して「ダイバーシティ研究環境支援本部」を設置しました。新本部では、共助支援及び理工農医保健系女性研究者に対する研究活動支援に加えて、ダイバーシティ化を目指して新しい支援の取り組みも展開しています。

教育研究支援員制度

2006年度より、出産・育児・介護等に関わる女性教員の研究活動の支援のために、主に博士後期課程修了者を教育研究支援員として採用する「教育研究支援員制度」を開始した。2016年度より、妻が他の研究機関（大学及び大学共同利用機関、文部科学省の施設等機関のうち学術研究を行うもの、高等専門学校）における常勤の研究者である男性教員も本制度を利用できるようになった。支援者と被支援者双方のキャリア形成、キャリア復帰等のチャレンジ支援・再チャレンジ支援に寄与するシステムである。

2017年度教育研究支援員制度利用状況

	5月～9月	10月～3月
利用者数	8名	9名
支援員延人数	27名	

子育て支援システム

「公共の子育て支援でカバーしきれないところに支援を！」の声に応えて、「ならっこネット」を運営し11年目を迎えた。今年度は、専任（共助サポーター）による手厚い支援を行う「ならっこコース」と、利用頻度が少ない方が気軽に利用できる、専任のいない「プチならっこコース」を利用者が選択できるようにし、より使いやすくなった。ならっこコースでは、Webシステム「Webならっこ」が利用でき効率よく依頼できる。安全安心な支援を実施するため、保険に加入し本部スタッフがサポートしている。学生の利用には「育児奨学金制度」が適用されるが、今年度より適用範囲が休日や長期休暇中にまで拡大され、より手厚い支援となった。PDには「ポストドクター育児支援金制度」が整備されている。

2017年12月末現在、「ならっこネット」登録利用者数は47名（支援される子どもの数62名）、登録サポーター数は62名である。12月末までの本年度の「ならっこネット」依頼件数は148件で、うち110件が実施された。

「ならっこイベント」は、学会や講演会などでの託児を行う支援システムで、運営8年目を迎えた。

「集団託児」のほか、託児がないイベントでも参加者が個人的に託児を依頼できる「個別託児」を行い、利便性を高めている。頻繁に利用される団体や部署があるため、今年度より「団体登録制度」を始め、登録団体には毎回の手続きを簡略化できるようにした。

今年度の依頼件数は30件、12月末時点で23件実施しており、約500名の子どもたちの託児を行った。



サポーター養成講座

子育て支援システムを安全安心に運営するために、信頼のおけるサポーターを学内外で確保し、その質を高めていくことが必須である。その目的で、今年度もサポーター養成講座を開催した。

今年度は、これまでの「基礎講座」を「サポーター登録説明会」へ改称し、本システムでのサポーターとしてのあり方や支援の具体的な内容を丁寧に説明することとした。9回実施し、新たに9名が説明会終了後にサポーターとして登録した。

またサポーターとしての技能と知識を高めるための「ブラッシュアップ講座」を、下記の題目で5講座を開講した。

- ①からだで伝わるコミュニケーション
- ②体験！保育の現場@奈良こども館
- ③こころとからだの発達-赤ちゃんから小学生まで
- ④薬の知識と与え方
- ⑤乳幼児の応急手当と子どもを連れての避難

毎年好評の認可外保育園での保育体験をはじめ、からだを動かすワークショップ・座学まで、ボランティアや子育て・孫育てに関心のある一般の方も一緒に学んでいる。

この他、今年度より、「子育て支援の基礎講座」として、初心者向けのスキルアップ講座を新しく設けた。



ワークライフバランス支援相談室(旧母性支援相談室)

3名のワークライフバランス支援相談カウンセラー(産婦人科医師・助産師・社会福祉士)が、学生・教職員からの相談に対応している。

思春期から更年期までの心と体の健康相談、妊娠・出産・子育てに関する相談、介護に関する相談等、健やかにワークライフバランスを保てるように支援を行っている。

相談者の中には男性も含まれており、より多くの学生や教職員に気軽に利用していただけるように、2016年4月より相談室の名称をワークライフバランス支援相談室に変更した。

今年度開催した「ワークライフバランス支援ミニ講座」では、「介護問題・介護制度についての知識や役立つ情報の提供」「生涯にわたる女性の健康について性差医療の立場から理解を深める」「生命の誕生・いのちを育むということに意識を向ける」をテーマに参加者で共有する場を設けたところ、関心のある教員・職員・学生の皆様に参加して頂き好評を得た。参加者同士和やかな意見交換の場となった。



情報の発信

「奈良女子大学の子育て支援」を発行し学内に配布した。また「ならっこネット通信」(メールマガジン)を3回、「ならっこニュース」(メールマガジン)を12回配信、サポーター向け冊子「サポーター通信」を1回、「ワークライフバランス支援相談室だより」を2回発行した。

ならっこルーム(奈良女子大学託児支援室)

「ならっこルーム」は2008年に開設された託児設備であり、ならっこネットでの支援のほか、ならっこイベントでの託児や、子育て支援システム利用者の家族・子どもを連れて来学された方などが利用できる。今年度は12月現在で89件の予約があり、うち78件の利用があった。1歳未満の保育園に預けていない子どもの利用や、子どもを室内で遊ばせながら一緒に過ごす利用者もあり、昨年より利用者も増え好調であった。



女性研究者ネットワーク

女性研究者ネットワークでは、女性研究者の研究力の更なる向上に資することを目的として、学内で主に女性教員を対象とした情報を整理して配信すると共に、大学内外からの女性教員にとって有益な情報を集約してメール配信している。2017年度より、情報提供を希望する大学院生へも配信している。

2017年度(12月末現在)は、ワークライフバランス支援相談室、子育て支援システム、教育研究支援員制度の利用案内、学内外の公募情報(研究スキルアップ経費他)、講演会等、24件の情報配信を行った。

研究活動支援事業(研究スキルアップ経費)

本事業は、2010年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」(2011年度より科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速事業」として実施)に採択され、5年間の採択期間終了後も引き続き、理工農系女性研究者の採用促進や、研究スキルアップをはじめとする研究者養成活動等の取組を進めている。また、2017年度からは、研究スキルアップ経費の支援対象を理工農系に加えて、医・保健分野へ範囲を拡大した。

2017年度研究活動支援事業の活動実績

◆研究スキルアップ経費支援

学内の理・工・農・医・保健分野の女性研究者を対象に、国際会議・国内会議等の参加及び英語論文校閲等の経費を支援した。

2017年度研究スキルアップ経費支援の利用状況

理学系研究者	農学系研究者	医・保健系研究者
4名	3名	4名

女性研究者の研究活動支援に関する問い合わせ先：

URL <http://gepo.nara-wu.ac.jp/j-kaikaku/> e-mail j-kaikaku@cc.nara-wu.ac.jp

ダイバーシティ研究環境支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax 0742-20-3344 URL <http://gepo.nara-wu.ac.jp/> e-mail shien@cc.nara-wu.ac.jp

キャリア開発支援本部

2016年度より一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会の会員になり、大学院生、博士研究員を対象とした研究インターンシップや産学協働イベント、自己分析セミナー、進路に関する相談等を実施し女性研究人材のキャリア形成支援を行い、研究分野における男女共同参画推進を目指しています。

C-ENGINEの「研究インターンシップ」 9名をコーディネート

14の大学とリーディング企業34社によって構成される一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会(C-ENGINE)は「人の交流」「知の交流」を掲げ、研究インターンシップを推進している。オンラインシステムと、各大学に配置されたコーディネーターによる支援が特徴で、本学も2016年度から加入した。初年度は3名(2社)の実績であったが、今年度は下表のとおり、9名(6社)の研究インターンシップを実現することができた。

教員向けインターンシップ説明会を実施

良好な実績を収められた要因として、以下2学部の教授会開催に合わせてC-ENGINE事業責任者による説明会を実施したことが挙げられる。

- 6月14日 理学部教授会
- 7月12日 生活環境学部教授会

それぞれ過半数の教員に情報提供することができた。理学部では教員からの働きかけにより、インターンシップにつながった事例があった。

学年	専攻	研修テーマ
M1	生活工学共同	電力会社社員等の睡眠実態の調査
M1	物理科学	新規pH応答ガラスの研究開発
M1	物理科学	加速器装置における電磁場シミュレーション
M1	生活工学共同	ポリエステル繊維の製糸と構造解析
D2	共生自然科学(化学)	新しい点眼剤の開発
D1	共生自然科学(生理学)	網膜障害のモデル動物を用いた基礎的検討
M1	数学	インバータスイッチング方式のノイズ定式化
M1	数学	ノイズ分野のAI活用検討
M1	心身健康学	感じ方の脳機能解析



学生と企業の交流会@奈良女

【日時】 2017年11月6日(月) 13:30~18:00

【場所】 ラウンジ

【プログラム】

1. 大学あいさつ
2. C-ENGINEの説明
3. インターンシップ報告
4. 企業の事業等紹介
5. ミニ・ワークショップ
6. 懇親会

【参加企業】

- ・京セラ株式会社
- ・株式会社巴川製紙所
- ・パナソニック株式会社
- ・株式会社堀場アドバンスドテクノ
- ・三菱電機株式会社



C-ENGINEの会員企業5社(7名)と事務局に協力をいただき、大学院生と大学院進学予定の学生29名との交流会を実施した。C-ENGINEの交流会を本学独自で開催するのはこれが初回であった。学生5名(物理科学専攻3名、生活工学共同専攻2名)によるインターンシップの報告、参加企業の事業やインターンシップの紹介を行った。



好評だったワークショップ「気分は異分野融合」

今回の交流会の特色は、学生と企業の距離を縮め、相互理解を深める目的で企画したワークショップである。あらかじめ専門性が重ならないようにメンバー構成したグループに企業参加者も加わり、グループワークを行った。各自の研究紹介から始まり、それぞれの専門を活かした「未来の研究所をつくる」というテーマに取り組んだ。終了後の懇親会には、物理科学専攻の教員3名も参加し、打ち解けた雰囲気の中でインターンシップに結びついた出会いもあった。

【感想】

- ・今まで、長期間の研究インターンはあまり行きたいと思っていなかったが、今回話を聞いて行ってみたいと思うようになった。(学生)
- ・ワークでは自分の研究の社会への生かし方について意見を聞き、まとめることでブラッシュアップになり、発表の練習にもなった。(学生)
- ・グループの各人の専門分野の紹介を通じて、奈良女子大学の取組の理解に大いに役立ちました。(企業)



セミナーの開催

ワークスタイルセミナー

『社会が博士に期待すること』

－大学院生と社会人、二つの視座から見える文系博士の強み－

【日時・場所】 2017年10月26日（木）14：40～16：10 N201教室

【講師】 星 かおり氏 人材育成コンサルタント企業勤務
お茶の水女子大学大学院博士後期課程在学中

【感想】 私はもう少し研究したいという漠然とした気持ちで、院に進みました。自分が将来したいことは何なのか、よくわからずに過ごしている現状ですが、どんな仕事にしろ、大学院で身に着けた力は役に立つと聞き、少し明るい気持ちになりました。周りとは比べ何かができないことに落ち込むのではなく、自分が何が得意か、さらにワクワクすることは何か、もう一度考えてみたいと思います。院生のための就活支援企画、まさに私自身求めているものでした。（学生）

社会が博士に期待すること
～大学院生と社会人、二つの視座から見える文系博士の強み～
日時 2017年10月26日（木）14：40～16：10
場所 N201教室 3階 2号室
講師 星 かおり氏 人材育成コンサルタント企業勤務
お茶の水女子大学大学院博士後期課程在学中

キャリアセミナー（ビジネススキル）

『グローバル人材になるための11ヶ条』

－英語はできて当たり前、外国人とともに働くのがふつうの時代を生きるために－

【日時・場所】 2017年12月7日（木）14：40～16：10 N201教室

【講師】 磯貝 富夫氏 元シャープ・インディア社長
Ajeenkya DY PATIL大学 非常勤講師

【感想】 実際にグローバルな現場で働かれていた磯貝さんのお話を聞いて、社会をこれから支えていくという意識が高くなりました。将来マーケティング分野の仕事をしたと思っていますが、グローバルなフィールドをターゲットにしていくことの面白さと難しさを感じました。日本人的な感覚とそのずれを柔軟に受け入れていくことが重要だと感じました。（学生）

グローバル人材になる11ヶ条
日時 2017年12月7日（木）14：40～16：10
場所 N201教室 3階 2号室
講師 磯貝 富夫氏 元シャープ・インディア社長
Ajeenkya DY PATIL大学 非常勤講師

キャリア形成のための院生自主企画

『基盤研究は商品開発でどのように役立つのか？』

－洗淨のプロフェッショナルに学ぶ－

【日時・場所】 2017年12月15日（金）15：00～16：30 G203教室

【講師】 坂井 隆也氏 花王株式会社



今年度より、キャリア開発支援本部が本企画の支援窓口となった。10月の公募により、共生自然科学専攻のD2、D1学生各1名と化学専攻のM2学生1名のグループが、企業の研究者によるセミナーを企画、実施することになった。セミナー当日は42名の学生で大盛況となり、企画した学生の自信につながり、主体性をさらに高めるものと期待される。

企業見学会・イベント参加支援

- 本学で主催したC-ENGINE関連イベント
10/10 花王株式会社見学会：本学からバスで出発（和歌山工場エコラボミュージアム）
3大学合同 本学学生14名、大阪大学8名、大阪府立大学11名参加
- 参加支援したイベント（片道交通費を補助）
5/11 学生と企業の交流会@大阪大学（9名）
5/23 学生と企業の交流会@大阪大学（20名）
7/13 化学・バイオ企業と学生の交流会@大阪大学（4名）
9/25 産業技術総合研究所（中部センター）
女性研究者との懇談会（D2 1名 D1 2名）
11/ 2 住友電気工業 企業見学（C-ENGINE）（4名）
11/21 産業技術総合研究所（つくば）
女性研究者との懇談会（D1 1名）

博士キャリア開発支援制度（DCD支援制度）の整備

「DCD支援制度」は博士後期課程学生、博士研究員の就職活動、学会発表の際の交通費補助により博士人材のキャリア開発支援をするものである。

単なる経済支援で終わらずに、就職活動、書類作成や面接対策などの継続的な相談につなげ、対象者のニーズに合わせた支援を心がけている。

自己分析セミナー等の支援状況と広報活動

4月からの自己分析セミナー受講者は26名で、のべ72回実施した。そのほかの相談はのべ134名であった（1/15時点）。

大学院生、博士研究員を対象とした情報提供のダイレクトメールを24回発信し、学内外のイベント等への参加を促した。

キャリア開発支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax 0742-20-3572

URL <http://cdpd.nara-wu.ac.jp>

e-mail career-k@cc.nara-wu.ac.jp

男女共同参画活動のアピール－自治体等との連携への取り組み－

◆ダイバーシティ経営シンポジウムでの講演

奈良県中小企業団体中央会が実施する経済産業省近畿経済産業局による奈良県内の中小企業を対象とした人材確保支援事業「ダイバーシティ経営シンポジウム」に、講師派遣と開催協力の依頼があったため、本学の培ってきたノウハウの展開を目的として協力した。

2017年8月23日（水）に奈良県内の企業経営者や人事担当者約90名が参加して開催され、春本副機構長が基調講演を行った。また、現役女子大学生パネリストの派遣協力依頼があったため、男女共同参画推進本部とやまと共創郷育センターが学内公募を行った結果、大学院生1名がパネリストとしての協力を賛同し参加した。

◆大阪大学シンポジウム『ダイバーシティが拓く、関西の未来』の協力参加

2018年2月5日（月）に大阪府立国際会議場で開かれた上記シンポジウムの協力機関として、本学が参加し、ポスター展示を行った。約430名の参加者があり、最初に文部科学省と科学技術振興機構よりご挨拶があり、第1部では基調講演、第2部では大阪大学 理事・副学長の工藤真由美氏のコーディネーターの下、ダイバーシティの重要性などについてパネルディスカッションが行われた。休憩時にはホワイトエに設けられたポスター展示に多くの出席者が訪れ、準備した資料が瞬間になくなるほどの盛会であった。



◆大阪市立大学『ダイバーシティ研究環境実現キックオフシンポジウム』の協力参加

2018年2月20日（火）に大阪市立大学主催「平成29年度ダイバーシティ研究環境実現キックオフシンポジウム」がグランキューブ大阪で開催され、本学も協力参加した。

◆大阪市立大学『南近畿ウィメンズイノベーションフェア』協力参加

2018年3月14日（水）に大阪市立大学主催「南近畿ウィメンズイノベーションフェア」が大阪産業創造館で開催され、本学は協力参加とパネル展示を行った。

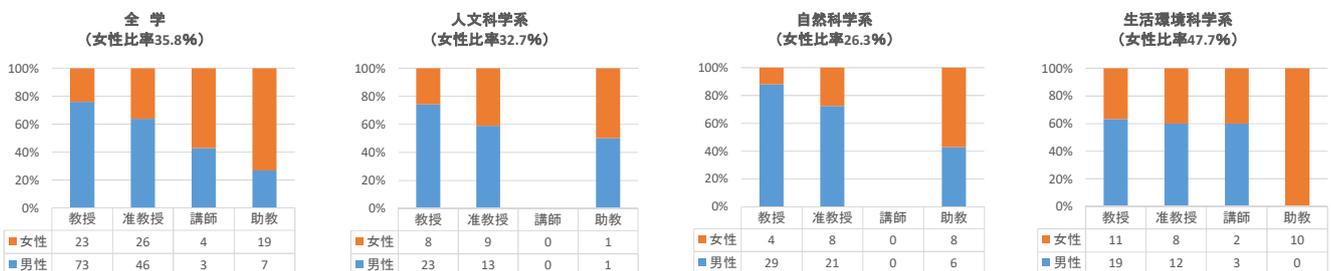
奈良女子大学教員に占める女性教員の割合

本学は2005年から12年間に渡る男女共同参画推進機構（男女共同参画推進室としてスタート）のリードによる女性研究者への支援体制整備によって比較的高い女性教員比率（2017年5月1日現在35.8%）を保っている。

しかしながら講師と助教を合計した女性比率69.7%に対して、教授女性比率は24.0%、准教授女性比率は36.1%と上位職階では低く下位職階では高くなっている。これは前述の女性研究者への支援体制などによる取り組みにより若い世代の女性教員数が増加してきたことによると言える。今後も女性教員の研究環境支援の整備に取り組み、若い女性教員の支援を続けていくことが重要である。

奈良女子大学教員の男女別人数（2017年5月1日現在）

大学全体の女性教員比率35.8%



注：全学には学系に所属しない教員数も含む

編集・発行：奈良女子大学男女共同参画推進機構

連絡先：奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742-20-3204 Fax 0742-20-3205

URL <http://gepo.nara-wu.ac.jp/>

